

あ な た と 市 政 を む す ぶ



かんおんじ

2022 / 令和4年

4 April

特 集

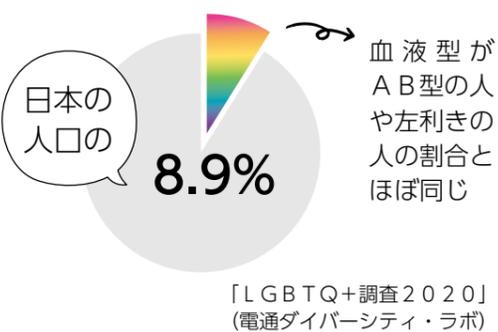
色とりどりのわたしたち

LGBTQってなに？

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度が

4月から始まります

LGBTQの割合



LGBTQはとても身近な存在ですが、存在が見えにくいいため、「オカマ」「ホム」「レズ」など同性愛者を笑いのネタにしたり、差別的な言葉を使ったりする、認識の無い人が多くいます。性的マイノリティは自殺未遂率が高いという調査結果があります。無理解や偏見により、生きづらい思いをしている人たちがいます。

レインボーフラッグの意味

さまざまなセクシュアリティの尊厳と性の多様性のシンボルである6色のレインボーフラッグ。市役所では性的マイノリティへの理解を深めるため、総合窓口などに設置しています。



多様性が当たり前のまちなに向けて

ALLY (アライ) になろう

アライとは、英語で「同盟」「味方」を表す言葉で、性的マイノリティを理解し、支援したい人のことです。何か特別な行動をしなくてはならないわけではありません。性的マイノリティについて知り、理解しようとするのが大切です。

カミングアウトを受けたら

どうしてほしいのか、相手に寄り添って聞いてあげましょう。自分以外の人に打ち明けている人がいないか聞いておくことで、アウティングを防ぐことができます。「打ち明けてくれてありがとう」など、話してくれたことに対する感謝を伝えましょう。否定的な言葉掛けやからかうことはやめましょう。

本人の同意なしにアウティングをしない

本人の同意を得ずに、本人が公にしていない性のことなどを周囲（家族も含む）に暴露することが問題となっています。過去には、大学生が同性の同級生に好意を打ち明けたところ、友人たちに同性愛であることを言いふらされ、自殺を図り亡くなる事件が起きています。本人の同意なく他人に伝えてはいけません。



覚えておきたい性の多様性に関する用語

- 【セクシュアリティ】性（体の性、社会的・文化的な性、性自認、性的指向、性別表現）
- 【性的指向】恋愛・性愛がどういった対象に向かうかを示すもの。異性愛、同性愛、両性愛など
- 【性自認】自分の性をどのように認識しているのかということ。心の性
- 【SOGI (ソジ)】性的指向と性自認のこと (Sexual Orientation & Gender Identity)
- 【FTM】トランスジェンダーのうち、性自認が男性で体の性が女性の人（男性として生きる・生きたい人）。Female to Male の略
- 【MTF】トランスジェンダーのうち、性自認が女性で体の性が男性の人（女性として生きる・生きたい人）。Male to Female の略
- 【ALLY (アライ)】性的マイノリティを理解し、支援する人のこと
- 【カミングアウト】自分の秘密を打ち明けること
- 【アウティング】本人の了解を得ずに、他の人に秘密を暴露すること
- 【ジェンダーバイアス】性差に関する固定概念、それに基づく差別・偏見・行動

次のページは！

市内にお住まいのトランスジェンダー、JIROさんのインタビューです。

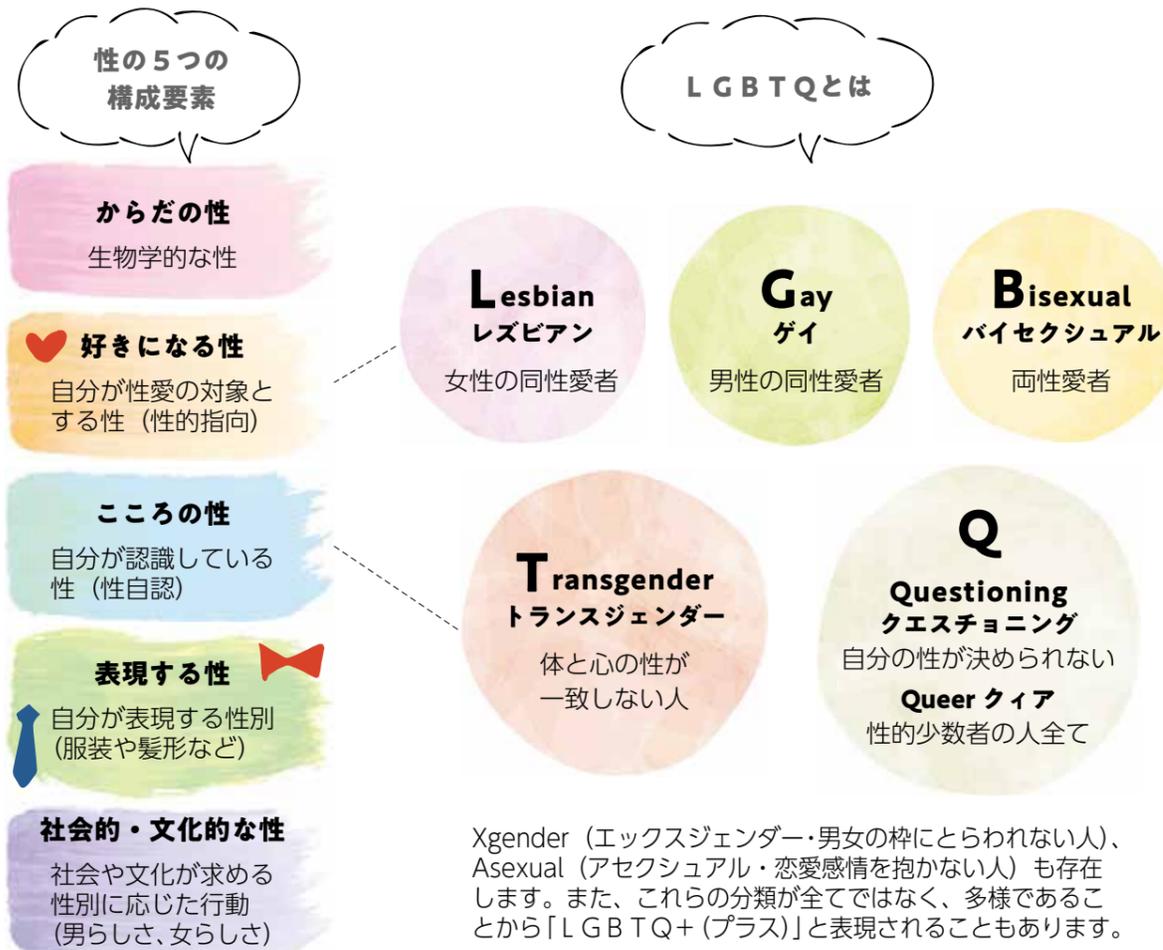
特集

色とりどりのわたしたち

LGBTQってなに？

性はグラデーション
性的マイノリティ（性的少数者）の総称で、「LGBTQ（エル・ジー・ビー・ティー・キュー）」という言葉があります。性的指向や心の性の英語表記の頭文字をとって組み合わせた言葉です。最近まで、世の中には、男性と女性の2つの性別しかないと思われてきました。しかし、一人ひとり考え方や姿などが異なるように、性もたった2つに分けられるほど単純ではありません。「性はグラデーション」と表現されるように、多様なもの

本市では、市民一人ひとりが互いに人権を尊重し、性の多様性を認め合い、誰もが大切なパートナーや家族と共に、自分らしく生きる社会をめざすため、4月から「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度（8ページ参照）」を導入します。制度を通じて、性の多様性や性的マイノリティへの理解が深まることを期待しています。



体の性と心の性が一致しないトランスジェンダーのJIROさん。子どものころからのお話を聞きました。

子どものころから、自分は男だと思っているのに、女の子の服を渡されるのが嫌でした。自分には特殊な人間なんだと思い、アンケートで「男・女」と丸を付ける項目があると、真ん中の「・」に丸を付けていました。

「周りとは比べなくていい」と励ましてくれた同級生

中学生で生理になり、「女性しか生理にならない」と知った時は絶望しました。家族との関係も悪化して、中学3年生の時に自殺を考えてしまいました。でも、同じバレー部のキャプテンが僕を救ってくれました。

「周りとは比べなくていい。今できることを一生懸命やり続けることが大事ななや」と、僕に毎日勉強を教えてくださいました。学校に行くだけで「よくでき

ました」と書いたシールをノートに貼ってくれて。彼女は、学校の先生をめざっていて、勉強を教えるのがとても上手でした。今は、小・中学校の先生になっていると思います。

高校生の時、気になる女の子ができ、交際を始めました。でも、彼女のお父さんに猛反対され、付き合い続けることはできませんでした。悔しくて仕方なかったものの、「このことを乗り越えられないなら、どうしようもないんだ」とも感じていました。

反対しなかった妻の両親

妻の両親には、彼女と結婚を前提にお付き合いをする前にあさつに行きました。

覚悟して行きましたが、「娘が良いと思う人なら、私たちはそれで良い」と言ってくれました。本当は辛かったかもしれないですが、僕が傷付かないように「孫はいらない」とも言ってくれました。

僕は、県外の病院で性別適合手術を受け、戸籍を男性に変えましたが、やはりすぐく楽になりました。性別を聞かれることや、病院や投票所の受付で混乱されることがなくなり、何より堂々と結婚できたことが嬉しかったです。パートナーシップ制度が当たり前の世の中であれば、選択肢は違ってくるのかもしれない。

パートナーシップ制度も性別適合手術も、先輩たちがたくさん努力してくれたから可能になりました。だから、僕もLGBTQの理解促進のため、自分ができることをしようと思っています。

ここ15年くらいで、テレビなどで女装家や中性的な芸能人が

多く活躍するようになり、LGBTQの理解は進んでいると思います。昔と比べれば、とても生きやすくなっています。ただ、隠して生きている当事者は、多くいると思います。知人は、トランスジェンダーであることを隠して男性と結婚し、子どもも生まれましたが、その後、悩んで夫にカミングアウトしたところ、「訳が分からないから出て行け」と言われ、離婚しました。

カミングアウトしない選択肢も大切に

今は、カミングアウトするのが当然という風潮になっていますが、それは違うと思います。しない選択肢もあります。

追い込まれている人に

「楽に生きて」と伝えたい

カミングアウトするかどうかで苦しむくらいなら、生きやすい方を選んでほしい。隠しているわけではないのです。僕みたいなのに、どんどん言う人もいるけど、「カミングアウトして認め合う」というよりは、自分の生きやすいように、自分のことが好きでいられるように生きることが大事だと思っています。ずっと、「自分は男だ」と気を張って生きてきました。でも、戸籍を変え、結婚して、生きやすくなりました。まだ、たまに「男性と女性」どちらですか?と聞かれることはありますが、今は「トランスです」と答えます。「それ何?」と言う人もいますが、中学生くらいだと「聞いたことある」と言う子もいます。やはり、「知っている」ということが大事なので、会った人には自分のことを話そうようにしています。そうすることで、より理解が進むと思っています。

悩んでいる当事者に伝えたい

僕が経験してきたことを、当事者の方、特に、子どもたちに伝えたいです。

意地悪をする人がいたら逃げて、相手にしなかったりしたり、相手に分かってもらわなければならない。身近な人が理解してくれていれば、それで十分です。そんな人は一人いれば良くて、絶対にいます。周囲の目が気になるなら、何かに打ち込んだら世界は広がります。

追い込まれている人には、「楽に生きてよ」と伝えたい。これまでつらいことが多かったなら、なおさら、後は楽しくなるだけだから。



JIROさん

観音寺市生まれ。性自認が男性、体は女性のトランスジェンダー（FTM）として育つ。戸籍を変更し、現在は妻、愛犬と暮らす。職業は農業。趣味は水族館や動物園に行くこと

次のページは！ 市内で「観音寺LGBTQ+カフェ」を主催するお二人の話です。

その人自身を見て

ファッションでは、ジェンダーに捉われない人が増えてきました。私は髪が長く、気に入ればレディースのものも身につけます。今では男性の化粧品も一般的で、メンズスカートもあります。性別やLGBTQという言葉の枠組みで捉えると、その人の本質が見えにくくなり、ジェンダー・バイアス（固定概念や偏見）につながりかねません。「性はグラデーション」と言われるように、本当に千差万別です。その人自身を知っていくことが大切です。（ミネさん）

悩んでいる人へ

自分を知っていく過程は人それぞれ。戸惑いもあると思いますが、自信を持って生きていっていいよと伝えたいです。生きていく中で、一人ひとりが「自分がこうしたい」と思うことにたどり着いて、表現していくことが大事です。自分自身の真実を生きてください。（ミネさん）

パートナーシップ・ファミリーシップ制度

制度を利用する人がいる、いないではなく、このような制度ができたことがありがたいです。ファミリーシップ制度も同時に導入すると聞き、「やったな、観音寺！」と思います。子どもを守る上で大事な制度です。行政、地域が動いていくことに感謝しています。（あきひとさん）

アウトティングはアウトティングを呼ぶ

僕もアウトティングをされた経験があります。よく知らないことを好奇心で話題にし、どんどん噂が広がっていく。当人だけでなく、親や友人なども傷つくということまで想像できていないのだと思います。同時に、アウトティングしてはいけないという責任感で苦しむ人もいます。知識を持ち、社会全体で偏見を減らしていかないと苦しむ人はなくなるのではないのでしょうか。（あきひとさん）

左利きと同じような存在になれば

昔、左利きの人は「行儀が悪い」などと言われ、差別的な扱いを受けることがありました。でも今は、左利き用のハサミがあったり、スポーツで優遇されたり、「左利きは持ち味」という考えに変化してきました。性的マイノリティも、時代とともに左利きと同じような存在になるのではないのでしょうか。社会が適応していくことで、次第に皆がなじんでいくものだと思います。だから僕は、「めざせ、左利き」と、研修や啓発に力を入れています。（あきひとさん）

多様性ってなんだろう

市主催の「じんけんしゃべり場」で講師を務め、毎月第2日曜日にふれあい文化センターで「観音寺LGBTQ+カフェ」を開催している合田さん（ミネさん）とあきひとさん。共にトランスジェンダー（FTM）である二人に、これまでの経験や性的マイノリティの現状などをお聞きします。

トランスジェンダーと気付いたのは？

子どものころから、女の子の服や自分の名前が嫌で、男の子と間違われるのが嬉しかったです。高校生の時にテレビで性同一性障害の番組を見て、「自分はこれだ！」と興奮したことを覚えています。（あきひとさん）

昔は「LGBTQ」という言葉もなく、自分の悩んでいることが何なのかよく分かりませんでした。大学生のころ、本がきっかけで自分の性自認を受け入れられるようになりました。（ミネさん）

職場ごとの理解の差

今の会社は、僕のことを少しずつ理解し、サポートしてくれました。会社の将来のために多様性の視点を持った新規事業部を企画した時、社長は「こういう案を出してくれてありがとう」と感謝してくれました。LGBTQだけでなく障がい者や女性なども働きやすい職場をめざしています。（あきひとさん）

採用担当者から「今はそんなこと気にする時代じゃないですよ。うちの会社には当事者も多く、配慮できます」と言っていたことがあります。知識を持つことはとても大切で、組織によって差があると思います。（ミネさん）

カミングアウトしたときのこと

中学生の時、友達に「好きな女の子がいる」と話した翌日、学校へ行くと誰も口を聞いてくれませんでした。陰で噂され、しんどかったです。その後、定時制高校に進学。年齢や職業が異なる同級生ばかりでしたが、カミングアウトしたら温かく受け入れてくれました。幼なじみや同級生など、大事な人たちが理解してくれたのは大きかったです。（あきひとさん）

大学3年の時に泊まりがけで海洋実習があり、部屋が女子と一緒にしたこと、申し訳ないとの思いでカミングアウト。4年になり、ゼミで話すと、「もっと早く言ってくれたらいいのに」と言われ、ホッとしました。大学院からは男子学生として入学し、やっと本当の自分を生きられると思いました。自分の性別で集団に所属することは大事なことです。（ミネさん）

親との関係

親に打ち明けることは一番の大きな壁でした。最後は「親はお前の人生の責任を取ってやれない。自分の責任でやりなさい」と言ってくれ、性別適合手術の際も支えてくれました。以前は、自分が何かすると家族に迷惑を掛けると思っていましたが、手術を受けて戸籍を変え、自分のために生きようと決めたとき、考え方が変わりました。（あきひとさん）

じんけんしゃべり場

身の回りにある人権課題について語り合う市民の交流の場です。

開催日 5月（未定）
場所 観音寺市役所
主催 人権課
※日程が決まれば、広報紙や市ホームページでお知らせします。



観音寺LGBTQ+カフェ

開催日 毎月第2日曜日（4月は10日）
午前9時30分～午前11時30分
場所 ふれあい文化センター（坂本町七丁目14-77）
内容 LGBTQ+のための相談・支援・学び・交流
対象 当事者、支援者、学びたい人（子どもから大人まで）
主催 虹LAB観音寺

かがわLGBT相談窓口

メール相談
プラウド香川
info@proud-kagawa.org
あしたプロジェクト
ashipro.life@gmail.com
※24時間受け付け
※原則1週間以内の返信

性的少数者やその家族、パートナーなどからの相談を受け付けています。一人で悩まず相談してみませんか。

電話相談
☎087-832-3222
毎月第1月曜日・第3土曜日
午後6時～午後9時
※県から委託されたプラウド香川の相談員が対応します。



あきひとさん

観音寺市生まれ。物流関係の企業に勤務。社内に「にじいろ未来づくり推進課」を立ち上げ、多様な人材の採用や職場環境の整備、企業研修に力を入れる。一人カラオケが好き



合田歩さん

観音寺市生まれ。公認心理師。大学で海洋資源学、大学院で臨床心理学を学ぶ。4月から県内高校でカウンセラーとして勤務予定。地学が大好きで、愛称はミネラル（鉱物）の「ミネさん」



次のページは！ 4月から導入するパートナーシップ・ファミリーシップ制度についてです。



パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を 4月から導入します

★ パートナーシップ宣誓制度

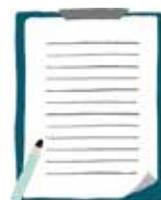
お互いを人生のパートナーとし、日常生活において相互に協力し合うことを約束した、一方または双方が性的少数者である二人が、市長に対してパートナーであることを宣誓し、市が宣誓書受領証などを交付する制度

★ ファミリーシップ宣誓制度

パートナーシップ宣誓をする人に子や父母などがいる場合、家族として協力し合うことを併せて宣誓することができる制度

★ 宣誓制度を利用できる人

- ① 双方が民法第4条に定める成人に達していること
 - ② 双方が本市に住所があること、または本市への転入を予定していること
 - ③ 双方に配偶者や他のパートナーがいないこと
 - ④ 双方が近親者でないこと（養子縁組をしている場合を除く）
- ※同居または生計が同一の子や父母などをファミリーシップ（家族）として、宣誓書に氏名を記載することができます。



★ 宣誓制度の効果

「観音寺市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」は、要綱により市政の中で運用するもので、法律上の効果（婚姻、相続、税金の控除等）が生じるものではありません。お二人の思いを尊重し、お二人が自分らしく、生き生きと生活されることを市として応援するものです。

また、この制度を通じて性の多様性への市民の理解が深まることで、差別や偏見の解消につながることを期待しています。



全国で広がるパートナーシップ制度の導入



同性カップルのパートナーシップが結婚に準ずる関係であることを地方自治体が証明するものとして、2015年に渋谷区と世田谷区で「パートナーシップ制度」が開始されました。2022年1月4日現在、全国147自治体で導入され、県内でもことし4月までに6市（高松市・善通寺市・観音寺市・さぬき市・東かがわ市・三豊市）と7町（小豆島町・土庄町・宇多津町・綾川町・琴平町・多度津町・まんのう町）が導入する予定です。「ファミリーシップ制度」を開始する自治体も増えてきています。

問い合わせ先 人権課 ☎23-3928 ☎23-3954